

学習計画（シラバス）の目的および活用法

1. 作成・発行の目的

将来の大きな夢や進路目標を抱いて川内高校に入学してきた諸君の、今年度の新たな学校生活がスタートしました。今まで培ってきたものを糧とした上で、過去の自分自身の進路意識や学習に対する取組を振り返り、新年度における目標と努力すべきことを再度真剣に考えて、決意新たに学習活動に取り組んで欲しいものです。

さて、3年間の高校生活を通して学習内容を本当に理解し身につけるためには、自主的な姿勢、「自ら学ぶ」姿勢が必要不可欠です。そのためにも、まず将来を見通した人生設計をし、具現化させるために何をすべきかを冷静に考えてみましょう。自ずと毎日の学習にも意義を見いだすことができ、自発的な取組にも繋がると思います。大切なことは、何事にも「前向き」であること、そして「継続する」ことです。以上のことを常に心に留めておけば、悩み・苦しみながらも、級友たちと共に貴重な高校生活を送ることができるはずです。そして高校3年間の最後の集大成とも言うべき“受験”という厳しい現実も、この心構えを実践することで、必ずや乗り越えられると思います。

この学習計画（シラバス）は、川内高校での学習内容を確認してもらうと同時に、今年度1年間を見通した学習活動計画をまとめたものです。以下の点に留意しながら、「自ら学ぶ」姿勢をもって、この1年を充実したものにして、自分の夢を実現して欲しいと心から期待します。

2. 内容・構成

- (1) 各学年の今年度分のシラバスが掲載されています。
- (2) 川内高校における3年間の学習の流れを見通すことができます。
- (3) 今年度の学習計画を、諸考査計画を含めて、1年間を見通して示してあります。
- (4) 各教科・科目の学習方法及び学習内容・到達目標等が詳細に記されており、自己評価もできます。

3. 効果的な活用法

この「学習計画（シラバス）」を活用して、自分の学習習慣を確立し、学力を向上させるため、次の点に留意しよう。

(1) 高校における学習の基本的な心構え

学習の基本的な心構えを認識し、今年1年間の学習活動につなげよう。

(2) 各教科・科目の学習計画・内容等

留意事項は以下の通り。

・[年間学習計画]

今年1年間の学習内容と流れをつかみ、学習や進路に対する自身の目標をしっかり意識しよう。

・[学習内容]

各教科・科目における具体的な学習内容を示してある。教科書を中心にしながら、副教材やプリントなど授業で学習する内容を事前に知ること、予習に役立てることができる。

・[学習方法・心構え]

学習を効果的に進めるためのポイント。我流の学習ではなく、その教科・科目の効果的な学習方法を身につけること。真摯な態度、地道な努力を継続することが、学力向上に繋がる。

・[到達目標]

必ず理解しなければならない具体的な事項を示してある。具体的な目標を意識して学習に取り組むことは、予習や復習の必要性を自覚することにもなり、学習内容を理解するために重要なことである。定期考査をはじめ、諸考査やテストは、この目標への到達度を測るために行われるのはいうまでもない。

・[自己評価]

上記の到達目標に対して、理解できたかどうか、具体的な項目について自分で評価してみよう。自分の学習状況を自己点検することは、考査前や模試の直前チェックにも役立つなど、向上心を一層高揚して学習意欲を高めることになる。

<授業が基本>

高校での勉強の中心は何と言っても授業である。毎日の授業を大切にし、教科書を完全にマスターすれば目的は必ずや達成される。授業をおろそかにして、我流の勉強をすることは時間の浪費でしかない。常に謙虚な気持ちを持ち、素直に先生方の指導に従おう。

(1) 高校の学習は予習が必須条件

小中学校時代から聞き慣れた「予習」の意義を再度考えてみよう。人は長時間の緊張にはなかなか耐えられないものである。本校では1日6～7時間の授業がある。予習の段階で、理解できる箇所と理解できない箇所、及び疑問点を明確にした上で授業に臨む習慣を身につけること。そうすることが結果的に時間の節約になると同時に、授業にも集中できる。教科書ガイドや友人のノートを写すといった楽な予習の愚かさを、理解できていない生徒はいないはずである。

「自力で問題を解決する力」は、日々の予習の習慣を通して身につけることができるものであり、一朝一夕にして成しうるものではない。予習の段階での疑問点をそのままにして授業に臨むのではなく、自分なりに精一杯考えること。現在の高校生に一番求められている部分である。

(2) 授業の受け方

上記の予習ができていれば、授業中は「どうしてだろう」という問題解決への積極的な姿勢で緊張感が張りつめているはずである。予習でも授業でも、理解できなかった箇所は教科担任に質問し、必ずその日のうちに解決するように努めよう。

(3) 復習について

確実な学力を身につけるための要件として「予習」・「授業」と同様に重要なのが「復習」である。

①暗記を必要としない学問は一つとしてない。とにかく、繰り返し覚えることである。

②「予習」・「授業」で理解したことが本当に身に付いているかどうか確認するために「練習問題」に当たって理解を深め、応用力の養成に努めよう。こうした自発的な学習が最も望ましい学習であり、真の学力を身につける一番の近道である。地道な努力無くして栄光はあり得ない。

<読書力と文章力の養成について>

教室で学ぶ知識事項は反復学習で確実に身につけなければならないが、それと同じくらい大切なことに「読書によって自分独自の教養世界」をつくることが挙げられる。大学入試では論文試験が主流になりつつある。様々なことについての知識を持つと同時に、自分なりの考えを表現する力・相手に伝える力が求められている。こうした力を身につけるために、本や新聞を読む時間を確保し、文章の要旨や自分なりの考えをまとめる習慣を身につけることが大切である。

学習指導要領に基づく学習評価について

本校で目指す教育を明示した「スクールポリシー」の理念に沿い、学習指導要領に基づく学習評価として以下のような観点別学習評価(以下、観点別評価という)を行います。

【観点別評価について】

各教科の教育活動については、シラバスにより大まかな流れ、各単元の学習計画により詳細を説明することになります。

1 観点別評価の目的

- (1) 学習の進歩の状況や良い点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにする。
- (2) 各教科・科目等の目標の実現に向けた学習状況を把握するために、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、場面や方法を工夫しながら学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上と資質・能力の育成を図る。

2 学習評価の方法

①「知識・技能」②「思考・判断・表現」③「主体的に学習に取り組む態度」の3観点別に評価基準を定め、いずれも目標に準拠して、「A(十分満足できる)」、「B(概ね満足できる)」、「C(努力を要する)」の3段階で評価します。

観 点	評価のポイント	評価の材料
「知識・技能」	・各教科・科目における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況。 ・既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか。	定期考査・小テスト・振り返りシート等
「思考・判断・表現」	・各教科・科目の知識及び技能を活用して、課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか。	定期考査・パフォーマンステスト・ワークシート・ノート・発表・報告等
「主体的に学習に取り組む態度」	・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか。	授業や課題に取り組む姿勢・パフォーマンステスト・学習課題帳の提出等

【評定について】

評定については、高等学校学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき定めた、当該教科・科目の目標や内容に照らして、その実現状況を総括的に次のように区分して評価します。

「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの	5
「十分満足できる」状況と判断されるもの	4
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	3
「努力を要する」状況と判断されるもの	2
「努力を要すると判断されるもののうち、より努力が必要」な状況と判断されるもの	1



鹿児島県立川内高等学校

スクール・ミッション及びスクール・ポリシー

スクール・ミッション

薩摩川内市にある歴史と伝統ある普通科高校として、グローバルな視点で物事を考える力を身に付けさせ、変化の激しい未来をしなやかに生き抜く力を育み、生徒の可能性を最大限に伸ばし、他者と協働し積極的に社会貢献できる人材を育成する学校を目指します。

教育目標

憲法及び教育基本法の精神を基に、「自律・敬愛・剛健」の校訓を人格形成の基本理念として、文武両道への取組を通して「知・徳・体」の調和がとれた、心豊かで、たくましく、国際的視野に立って主体的・創造的に生きる人間の育成を図る。

「確かな学力」「豊かな人間性」「変化の激しい未来を生きる力」の育成を目指す。

校訓

自 律

敬 愛

剛 健

目指す生徒像

高い目標を掲げ、自らを律し、主体的に考え行動できる生徒

人間性豊かで、積極的に他者と協働し、社会貢献をしようとする生徒

気力・体力・活力に満ち、粘り強く自己実現を目指す生徒

スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー（こんな資質・能力を育成します！）

- ① グローバルな視点で物事を考え、自ら判断し主体的に行動できる人材を育成する。
- ② 人間性豊かで多様な価値観を尊重し、他者と協働し積極的に地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。
- ③ 知力と体力をそなえ、生涯にわたって意欲的に学び続け、積極的に未来を切り開こうとする人材を育成する。

探究力（追求力）

思考力

実行力

自己肯定感

多様な個性を尊重する態度

社会貢献

健康増進力

コミュニケーション力

俯瞰力

カリキュラム・ポリシー（こんな教育活動を展開していきます！）

- ① 人権教育を全ての教育の基本とし、家庭・地域及び関係機関と連携を図りながら、生徒の「生きる力」と「自他ともに尊重する心」を育成する教育活動を展開する。
- ② 生徒の学力向上と進路実現のために、学びの先を見据えた指導を展開する。
- ③ 文武両道の精神の下に教育環境の整備・充実に努め、部活動や学校行事等への積極的な取組を通して、心身の健全な育成を図る。

アドミッション・ポリシー（こんな生徒を待っています！）

- ① 本校の教育方針をよく理解し、志望の動機と将来への目的意識がはっきりとしている生徒
- ② 基本的な生活習慣を身につけており、自らを律し他者を尊重し、けじめのある生活を送ることのできる生徒
- ③ 知的好奇心や探究心が旺盛で、主体的に粘り強く学習に取り組むことのできる生徒
- ④ 学校行事、部活動、生徒会活動、地域活動に積極的に取り組み、リーダーシップを発揮することのできる生徒

科 目	論理国語	学 年	2 年 (文・理)	単位数	2 単位
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知技】 (2)論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思判表】 (※該当領域：《書くこと》《読むこと》) (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【主態】				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
〈教科書〉『論理国語』（大修館書店） 〈副教材〉漢字問題集他	・休日課題問題集 ・教材プリント類

【目指す能力と評価について】★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・論証や学術的な学習の基礎を学ぶために、言語感覚を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の効果的な組み立て方や接続の仕方や、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・情報を断層化して整理し、推論の仕方について理解を深め使用している。	・《書くこと》において、様々な言語活動を通し「題材の設定」「情報収集・内容の検討」「構成の検討」「考えの形成・記述」「推敲・共有」のために必要な力を身に付けている。 ・《読むこと》において、様々な言語活動をとおして、「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成・共有」のために必要な多くの事項を身に付けている。	・言葉を通して積極的に他者や社会に関わることで、言葉がもつ価値への認識を深める努力をしようとしている。 ・我が国の言語文化の担い手であることを自覚し、様々な言語活動や読書を通してものの見方・感じ方・考え方を更に深めようとしている。
評価方法	定期考査・小テスト・振り返りシート等	定期考査・パフォーマンステスト・ワークシート・ノート・作文等	授業や課題に取り組む姿勢・言語活動・パフォーマンステスト・学習課題帳の提出等
★	探究力	思考力・コミュニケーション力	探究力・実行力

【学習内容】

学期	月	学習内容等	身に付けたい力
1学期	4	《世界・言葉・私》	①文章の種類を踏まえ、内容や構成、論理の展開などを的確に捉える力。
	5	・「世界を広げる『批評』の言葉」宇野 常寛	
	6	・「対話の精神」平田 オリザ	
	7	【言語活動】身近な言葉について、他社にもわかるように定義づけすることで、言葉の意義や機能について理解を深める。	
2学期		《芸術と文化》	②文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図を多面的・多角的な視点から批評する力。
		・「ミロのヴィーナス」清岡 卓行	
		《共同体のいま》	
		・「コミュニティから見た日本」広井 良典	
	9	《科学の可能性》	
	10	・「自己をモデル化する知能」石黒 浩	
3学期	11	・「人工知能の可能性と畏」西垣 通	③同じテーマについて、複数の文章を読み比べることで、多様な論点や異なる価値観を知り、新たな観点から自分の考えを深めることのできる力。
	12	【言語活動】読み比べをとおし、立場を明確にして自分の意見を書く。	
		《日本語の多様性》	
		・「敬語への自覚、他者への自覚」橋本 治	
		《思考の枠組み》	
		・「スキーマと記憶」今井 むつみ	
		・「絵を見る技術」秋田 麻早子	④自分の考えを文章構成や展開、表現の仕方を工夫しまとめることのできる力。
		【言語活動】読み比べをとおし、図版資料から情報を抽出し、自分が考えたことをまとめる。	
	1	《社会の視点》	
	2	・「分かち合う社会」山極 寿一	
	3	《グローバル化の先へ》	
		・「心に『海』を持って」山崎 正和	

【アドバイス】

◇論理的文章をより深く理解し、テーマに関して自分なりの考えを持つこと。
◇「読むこと・書くこと」の言語能力を高め、読解力や思考力・表現力を培う貴重な時間であることを認識すること。
◇予習や復習、宿題等にしっかりと取り組むこと。
◇忘れ物をせず、授業を真剣に受けること。
◇考査受験後、解けなかった問題は訂正し、確実に理解すること。
◇日頃から、新聞を読んだり読書をしたりして、様々な情報を取捨選択する能力を身に付け、語彙を増やしていくこと。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	文学国語	学 年	2 年（文系）	単位数	2 単位
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2)考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
〈教科書〉『文学国語』（大修館書店） 〈副教材〉漢字問題集	・休日課題問題集 ・教材プリント類

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	《読むこと》において、文学的文章を通じて深く共感し、豊かに想像できる力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深められるようにしている。 《書くこと》において、文章構成や展開に関する知識を身に付け、表現できるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方・感じ方・考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。また、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価方法	定期考査・小テスト・振り返りシート等	定期考査・パフォーマンステスト・ワークシート・ノート・作等	授業や課題に取り組む姿勢・パフォーマンステスト・学習課題帳の提出等
★	探究力	思考力・コミュニケーション力	探究力・実行力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	付けたい力
1 学期	4	《随想》 ・「18歳の選択」朝井 リョウ	・言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、文学的文章を読むことで、ものの見方、感じ方、考え方を深めることができる力。
	5	《小説》 ・「旅する本」石田 衣良	
	6	※展開 「『旅する本』について」石田 衣良	
	7	《詩・短歌・俳句》 ・短歌十三首、俳句十五句 ※展開 「共感と驚異」 【言語活動】 韻文作品を作り、互いに鑑賞する。	
2 学期	9	《小説》 ・「山月記」中島 敦	・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察し、文章の種類を踏まえて内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える力。
	10	・「離さない」川上 弘美	
	11	《随想・評論》・「浄瑠璃寺の春」堀辰雄 【言語活動】	
	12	「情景を描写する」を通して、相手に情景を伝えるために表現技法を工夫する力を身につける。	
3 学期		《小説》 ・「こころ」夏目 漱石	・文学的文章を通じ、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色についての的確に捉え、深めた自分の考えを表現する力。
	1	《随想・評論》・「月の誤訳」多和田 葉子	
	2	・「私の日本住居論」ドナルド・キーン	
	3	【言語活動】読み手に印象的に伝えられることを意識して、読書体験記の構成を考えて書く。	

◇「文学国語」では、文学に対してのより深い理解が要求される。作品を味わうことはもちろん、文学の捉え方についても考える時間にしたい。また、「読むこと・書くこと」の言語能力を中心に、読解力や思考力・表現力を培う貴重な時間であることを認識すること。

◇予習や復習、宿題等にしつかりと取り組むこと。

◇忘れ物をせず、授業を真剣に受けること。

◇考査受験後、解けなかった問題は訂正し、確実に理解すること。

◇日頃から、新聞を読んだり読書をしたりして、様々な情報を取捨選択する能力を身に付け、語彙を増やしていくこと。

※各単元の学習内容や評価の詳しいことは、後日示します。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	古典探究	学 年	2 年 (文・理)	単位数	2 単位
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
〈教科書〉『精選 古典探究』（第一学習社） 〈副教材〉古文単語 古文文法 漢文句形	・休日課題問題集 ・教材プリント類

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	《読むこと》において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。また、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価方法	定期考査・小テスト・振り返りシート等	定期考査・パフォーマンステスト・ワークシート・ノート・発表・報告等	授業や課題に取り組む姿勢・パフォーマンステスト・学習課題帳の提出等
★	探究力	思考力・コミュニケーション力	探究力・実行力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	付けたい力
1 学期	4	【古文】説話「古今著聞集」「沙石集」	・古文・漢文を読むための基礎知識を身に付け、古典作品の特質について理解できる。
	5	【漢文】故事・逸話「推敲」「呉越同舟」「知音」	
	6	【古文】随筆「徒然草」「方丈記」	
	7	【漢文】漢詩「中国の詩」「日本の詩」 【言語活動】①漢詩の字句や構成について考える。 ②白居易と菅原道真の左遷の地での思いや詩の表現の違いについて調べ考えを深める。	
2 学期	9	【古文】物語「伊勢物語」「大和物語」	・物語や随筆、日記から、作者の考えや書かれた時代について理解できる。 ・漢文の史伝や物語を読み、内容や展開、主張を的確に捉えることができる。
	10	【漢文】史伝「史記 本紀」	
	11	【古文】物語「源氏物語」「大鏡」	
	12	【漢文】文章「搜神記」他 【言語活動】「酒虫」(芥川龍之介)との読み比べを通して、芥川の制作意図を捉える。	
3 学期	1	【古文】日記「蜻蛉日記」「更級日記」	・思索的な文章で書かれた古文・漢文を読み、作者の考えを的確に捉える事ができる。 ・和歌の表現や技法を理解し、鑑賞することができる。
	2	【漢文】思想「孟子」「老子」「莊子」「韓非子」	
	3	【言語活動】論語と老子の読み比べを通して、二つの思想の違いについて理解を深める。	
		【古文】物語「大鏡」 【古文】和歌・歌謡・歌論	

〈予習のしかた〉

①教科書をしっかりと読む。

②古文については、本文をノートに写し、古語辞典でわからない単語の意味を調べながら、自分なりの口語訳をする。

③漢文については、白文・書き下し文をノートに書き、漢和辞典でわからない単語の意味や句法を調べながら、自分なりに口語訳をする。

〈復習のしかた〉

①予習の時点でわからなかったところが、理解できたか確認する。

②授業で学んだ内容を再度確認する。

③教科書に出てきた内容と関連するいろいろな本を探して、発展的な読書を心がける。

④考査受験後、解けなかった問題は訂正し、確実に理解する。

※各単元の学習内容や評価の計
細については、後日示します

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	世界史探究	学 年	2 学年（選択）	単位数	文系：3／理系：2 単位
学習の 到達目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 (2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題等
(教)『詳説 世界史』(山川出版社) (副) アカデミア世界史 (浜島書店) 授業用詳説世界史整理ノート (山川出版社)	『新世界史研究ノート』(啓隆社) 『詳説 世界史 10 分間テスト』等

【目指す能力と評価について】

	目指す能力・評価の観点	主な評価方法
知識・技能	①地球の誕生や人類の誕生を視野に入れつつ、古代文明の形成から現代に至る世界の歴史の展開を扱い、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みを基に、世界の歴史を大きく捉えることができるようにする。 ②小・中学校で習得した知識を基に新たに学ぶ知識との関わりを見だし、世界の歴史を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。 ③文献や絵図、遺物、遺構、地図、統計など歴史学習に関わる様々な資料から必要なものを取捨選択し、有効に活用できる。	a.定期・実力考査 b.単元ごとの評価課題 c.課題やノート等の提出 d.まとめ作品や発表の内容
思考・判断・表現	①「世界史探究」において養われる思考力・判断力を、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて、多面的、多角的に考察できる。 ②歴史に見られる課題を把握し、その解決を視野に入れて自分の意見や考えをまとめ、課題解決の在り方を問う力を高める。 ③歴史に関わる事象の意味や意義について、資料等を適切に用い、自分の考えを論理的に説明、論述、議論する表現力を身に付ける。	a.定期・実力考査 b.単元ごとの評価課題 c.課題やノート等の提出 d.授業中の発表内容
主体的に学習に取り組む態度	①歴史に関わる諸事象について、自ら関心をもって学習に取り組むとともに、学習を通してさらに関心を喚起し、探究しようとしている。 ②日本の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深め、学びに向かう力を養う。 ③示された課題に対し、前向きかつ積極的に取り組む。	a.授業中の発表内容 b.課題への取組・提出状況 c.考査等への取組状況
川内高校グランド デザインとの関連	知識・技能	思考力、実行力
	思考・判断・表現	思考力、コミュニケーション力、自己肯定感
	主体的に学習に取り組む態度	実行力、多様な個性を尊重する態度、俯瞰力、社会貢献

【学習内容】 ※月と配当時間は目安

	月	時間	指導内容・考査計画
1 学 期	4～6	20	第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成 第1章 諸地域の古代文明 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 第4章 西アジアと地中海周辺の世界形成 第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成
	7	4	1学期末考査
2 学 期			2学期課題・実力考査
	8	2	第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向
	9・10	14	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国
	11	8	第9章 大交易・大交流の時代 第10章 アジア諸国の繁栄
	12	2	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 2学期末考査
3 学 期			3学期課題・実力考査
	1・2	12	第Ⅲ部 諸地域の結合・変容 第12章 産業革命と環大西洋革命
	3	3	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 学年末考査 (3学年へと継続)

【定期、課題・実力考査に関して】

- 定期考査は範囲を毎回指定します。課題・実力考査は基本的に「既習事項全て」を範囲とします。
- 定期考査は日頃の授業内容の理解・定着度の確認の意味合いを持ちます。基本的に習ったことが出題されるので、点数が取れない＝勉強・対策不足です。指定された範囲を何度も学習し考査に臨むこと。
- 課題・実力考査は共通テストや対外模試を強く意識して出題します。様々な解答方法に対応できるよう実力養成に努めてください。

【学習上のアドバイス】

- ① 教材の忘れ物を絶対にしない。毎回の授業を大切にしましょう。課題提出を指示された場合は、必ず記名して〆切厳守で提出する。未提出や無断での〆切遅れには厳しく対処します。
 - ② 授業での理解が第一です。授業があった日に家で「その日の授業内容が再現できるか」「他人に『こういう授業内容だったよ』と伝えられるか」ができていればOKです。また、予習は特に必要ありません。授業→復習を徹底する。
 - ③ 長期休業中や考査前以外に特別な課題等を課すことはありませんが、②が徹底されず、定着が悪いと教科担当が判断した場合はその都度、個人・学級単位で特別課題を課すことがあります。この課題の取組・提出は評価に算入するものとします。
 - ④ 語句の丸暗記では考査や模試、共通テストに対応できません。覚えなければならない語句や地名等がありますが、暗記中心の学習ではなく、理解し説明できるまでの学習の確立に努めましょう。
- ※ その他、疑問点等があれば教科担当に質問してください。

科 目	地理探究	学 年	2 学年（選択）	単位数	文系：3／理系：2 単位
学習の 到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や GIS などを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に概念などを活用して多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けた構想力や、考察・構想したことの説明力、それらを基にした議論能力を養う。 (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重使用することの大切さについての自覚などを深める。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題等
(教)『新詳 地理探究』(帝国書院),『新詳高等地図』(帝国書院) (副)『新詳地理資料 COMPLETE 2024』(帝国書院) ※授業中に補足プリントや資料等を適宜配布する	『'24 新地理の研究』(啓隆社) ※長期休業中の課題等については授業中に別途指示することがある。

【目指す能力と評価について】

	目指す能力・評価の観点	主な評価方法
知識・技能	①世界の空間的な諸事象の規則性や傾向性、世界の諸地域の地域的特色や課題を理解するために情報を収集し、情報手段の特性や情報の正しさなどに留意しながら正しく判断できる。 ②収集した情報を全体の傾向性や取捨選択、複数の情報の関連性・共通性や創意性などに注意して読み取ることができる。 ③基礎的な情報、資料を基に自分の尺度で分類・整理し、地図や GIS などを使って他の人に分かりやすいようにまとめることができる。	a.定期・実力考査 b.単元ごとの評価課題 c.課題やノート等の提出 d.まとめ作品や発表の内容
思考・判断・表現	①一次情報を基にして思考を高め、すぐに解答できないこと、答えが存在しない問いに対して自らの知識や得られた情報を基に多面的・多角的に粘り強く思考することができる。 ②一般的な価値尺度に加え、自らの価値基準を用いて情報や事項の真偽を判断し、自らの思考・判断の過程を適切な手段や表現方法で他人に分かりやすく伝え、議論することができる。	a.定期・実力考査 b.単元ごとの評価課題 c.課題やノート等の提出 d.授業中の発表内容
主体的に学習に取り組む態度	①1つの情報だけに依拠せず、複数の情報を得て自らの思考や判断の材料を増やし、補強しようとしながら、与えられた情報のみにとどまらず、より広範な観点から課題解決に取り組もうとしている。 ②将来を担う一員としての自覚を持ち、地理的な見方・考え方を通した真偽や公正・正義などの判断尺度を持ちながら、主体的に探究していこうとしている。	a.授業中の発表内容 b.課題への取組・提出状況 c.考査等への取組状況
川内高校グランド デザインとの関連	知識・技能	思考力, 実行力
	思考・判断・表現	思考力, コミュニケーション力, 自己肯定感
	主体的に学習に取り組む態度	実行力, 多様な個性を尊重する態度, 俯瞰力, 社会貢献

【学習内容】 ※月と配当時間は目安

	月	時間	指導内容・考査計画
1 学期	4～6	20	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 1 地形 / 2 気候 1学期末考査
	7	4	3 日本の自然環境 / 4 地球環境問題 (※2学期へ継続) 2学期課題・実力考査
2 学期	8	2	4 地球環境問題
	9・10	14	第2章 資源と産業 1 農林水産業 / 2 食料問題 2学期中間考査
	11	8	3 エネルギー・鉱産資源 2学期実力考査
	12	2	4 資源・エネルギー問題 (※3学期へ継続) 2学期末考査
3 学期	1		3学期課題・実力考査
	2	2	4 資源・エネルギー問題
	3	3	5 工業 6 第3次産業 学年末考査

【定期、課題・実力考査に関して】

- 定期考査は範囲を毎回指定します。課題・実力考査は基本的に「既習事項全て」を範囲とします。
- 定期考査は日頃の授業内容の理解・定着度の確認の意味合いを持ちます。基本的に習ったことが出題されるので、点数が取れない＝勉強・対策不足です。指定された範囲を何度も学習し考査に臨むこと。
- 課題・実力考査は共通テストや対外模試を強く意識して出題します。様々な解答方法に対応できるよう実力養成に努めてください。

【学習上のアドバイス】

- ① 教材の忘れ物を絶対にしない。毎回の授業を大切にしましょう。課題提出を指示された場合は、必ず記名して〆切厳守で提出する。未提出や無断での〆切遅れには厳しく対処します。
- ② 授業での理解が第一です。授業があった日に家で「その日の授業内容が再現できるか」「他人に『こういう授業内容だったよ』と伝えられるか」ができていればOKです。また、予習は特に必要ありません。授業→復習を徹底する。
- ③ 長期休業中や考査前以外に特別な課題等を課すことはありませんが、②が徹底されず、定着が悪いと教科担当が判断した場合はその都度、個人・学級単位で特別課題を課すことがあります。この課題の取組・提出は評価に算入するものとします。
- ④ 語句の丸暗記では考査や模試、共通テストに対応できません。覚えなければならない語句や地名等がありますが、暗記中心の学習ではなく、理解を中心とした学習の確立に努めましょう。
- ⑤ 初めて見る図表グラフやデータに対し、自分の持っている知識をどうあてはめるのか、あるいはどのように解釈したら学習したことに合致するかを考えていく「パズルの」な要素を多く含みます。ぜひ、「問題が解ける」楽しみを味わいながら学習を進めてください。

※ その他、疑問点等があれば教科担当に質問してください。

科 目	日本史探究	学 年	2 学年（選択）	単位数	文系：3／理系：2 単位
学習の 到達目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 (2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 我が国の歴史の展開に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題等
(教)『詳説 日本史』(山川出版社) (副)『新日本史要点ノート（新課程版）』(啓隆社)， 『新詳日本史』(浜島書店) ※授業中に補足プリントや資料等を適宜配布する	『新日本史研究ノート』(啓隆社) ※長期休業中の課題等については授業中に別途指示することがある。

【目指す能力と評価について】

	目指す能力・評価の観点	主な評価方法
知識・技能	①日本の歴史の展開について、世界史的視野に立って各時代の特色及び変遷を総合的に考察し、伝統と文化について認識を深める。 ②時間軸の中での連続性や、地域と日本、世界の空間的な認識、政治や経済、社会、文化、国際環境の変化など様々な面から捉える。 ③文献や絵図、遺物、遺構、地図、統計など歴史学習に関わる様々な資料から必要なものを取捨選択し、有効に活用できる。	a.定期・実力考査 b.単元ごとの評価課題 c.課題やノート等の提出 d.まとめ作品や発表の内容
思考・判断・表現	①「日本史探究」において養われる思考力・判断力を、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて、多面的、多角的に考察できる。 ②歴史に見られる課題を把握し、その解決を視野に入れて自分の意見や考えをまとめ、課題解決の在り方を問う力を高める。 ③歴史に関わる事象の意味や意義について、資料等を適切に用い、自分の考えを論理的に説明、論述、議論する表現力を身に付ける。	a.定期・実力考査 b.単元ごとの評価課題 c.課題やノート等の提出 d.授業中の発表内容
主体的に学習に取り組む態度	①歴史に関わる諸事象について、自ら関心をもって学習に取り組むとともに、学習を通してさらに関心を喚起し、探究しようとしている。 ②日本の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深め、学びに向かう力を養おうとしている。 ③示された課題に対し前向きかつ積極的に取り組もうとしている。	a.授業中の発表内容 b.課題への取組・提出状況 c.考査等への取組状況
川内高校グランド デザインとの関連	知識・技能	思考力，実行力
	思考・判断・表現	思考力，コミュニケーション力，自己肯定感
	主体的に学習に取り組む態度	実行力，多様な個性を尊重する態度，俯瞰力，社会貢献

【学習内容】 ※月と配当時間は目安

	月	時間	指導内容・考査計画
1 学 期	4～6	20	第1部 原始・古代 第1章 日本のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開
	7	4	1学期末考査
2 学 期			第3回実力考査
	8	2	第Ⅱ部 中世 第5章 院政と武士の躍進
	9・10	14	第6章 武家政権の成立 2学期中間考査 第4回実力考査
	11	8	第7章 武家政権の成長 2学期末考査
	12	2	第Ⅲ部 近世 第8章 近世の幕開け
3 学 期	1・2	12	第9章 幕藩体制の成立と展開 第5回実力考査
	3	3	第10章 幕藩体制の動揺 (3学年へと継続) 学年末考査

【定期、課題・実力考査に関して】

- 定期考査は範囲を毎回指定します。課題・実力考査は基本的に「既習事項全て」を範囲とします。
- 定期考査は日頃の授業内容の理解・定着度の確認の意味合いを持ちます。基本的に習ったことが出題されるので、点数が取れない＝勉強・対策不足です。指定された範囲を何度も学習し考査に臨むこと。
- 課題・実力考査は共通テストや対外模試を強く意識して出題します。様々な解答方法に対応できるよう実力養成に努めてください。

【学習上のアドバイス】

- ① 教材の忘れ物を絶対にしない。毎回の授業を大切にしましょう。課題提出を指示された場合は、必ず記名して×切厳守で提出する。未提出や無断での×切遅れには厳しく対処します。
- ② 授業での理解が第一です。授業があった日に家で「その日の授業内容が再現できるか」「他人に『こういう授業内容だったよ』と伝えられるか」ができていればOKです。また、予習は特に必要ありません。授業→復習を徹底する。
- ③ 長期休業中や考査前以外に特別な課題等を課すことはありませんが、②が徹底されず、定着が悪いと教科担当が判断した場合はその都度、個人・学級単位で特別課題を課すことがあります。この課題の取組・提出は評価に算入するものとします。
- ④ 語句の丸暗記では考査や模試、共通テストに対応できません。覚えなければならない語句や人名・事件等がありますが、暗記中心の学習ではなく、理解を中心とした学習の確立に努めましょう。
- ⑤ 初めて見る史料やグラフやデータに対し、自分の持っている知識をどうあてはめるのか、あるいはどのように解釈したら学習したことに合致するかを考えていく「パズルの」な要素を多く含みます。ぜひ、「問題が解ける」楽しみを味わいながら学習を進めてください。

※ その他、疑問点等があれば教科担任に質問してください。

令和7年度 公民科「公共」シラバス

教科	公民	科目	公共	2年必修	単位数	2単位
【学習目標】 ① 人間と社会についての見方・考え方を働かせる。 ② 現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を行う。 ③ 広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。						
【使用教材】 〈教科書〉 高等学校 公共―私たちがひらく未来・社会―(清水書院) 〈副教材〉 高等学校公共ワークノート(清水書院)						
【学習姿勢・学習方法】 ① 「公共」は単なる暗記科目ではない。教科書をよく読み、教科書の重要語句は前後の文章のなかで覚え、事項の関連性を理解することを重視すること。 ② 授業中心の学習に心がけること。また、復習を重視し、既習範囲はその都度確実にマスターしていくこと。考查や模試で問われた内容や新しく得た知識をノートに書き込むなどして、自分だけの「参考書」を作りあげていこう。						

○観点別学習状況の評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 ・諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力がある。	・よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚、国民主権を担う公民として各国民が協力し合うことの大切さの自覚などを深めようとしている。

○学習計画と評価の方法

月	学習内容	評価の方法
4月	第1編 第1章 公共的な空間をつくる私たち	
	1 私たちの人生と社会 2 青年期の心理と課題 3 哲学の始源と発展 4 一神教の教え 5 東洋の宗教と思想(1) 一仏教 6 東洋の宗教と思想(2) 一儒教	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 統計データ・新聞・原典資料・芸術作品などからの読み取り、ワークシート、小テスト 【主体的な態度】 ディスカッション、プレゼンテーション、レポート
5月	7 日本の風土と神仏への信仰 8 江戸時代の学問と近代化への歩み	
	第1編 第2章 公共的な空間における人間	
	1 義務論と功利主義 2 生命倫理 3 環境倫理	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 ケーススタディ、新聞などからの読み取り、ワークシート、定期テスト 【主体的な態度】 ディスカッション、プレゼンテーション、レポート
	第1編 第3章 公共的な空間における基本原理	
6月	1 近代的人間像の誕生(1) 一近代の始まり 2 近代的人間像の誕生(2) 一科学的な思考 3 国家社会と人間性(1) 一社会契約説 4 国家社会と人間性(2) 一ヘーゲルとマルクス 5 国家社会と人間性(3) 一実存主義 6 公共性の復権と他者についての思考 7 公正な社会と個人―現代の政治思想	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 原典資料・著作物などからの読み取り、ワークシート、小テスト 【主体的な態度】 ディスカッション、レポート
	第2編 第1章 民主政治の原理	
7月	1 近代国家と立憲主義 2 日本国憲法の成立	【知識・技能】 憲法・原典資料などからの読み取り、ワークシート、定期テスト

		【思考・判断・表現】【主体的な態度】ディスカッション、レポート
	第2編 第2章 人権の尊重と日本国憲法	
9月	1 日本国憲法の三原理と人権保障 2 平和主義と国際社会 3 平等権 4 自由権 5 社会権 6 参政権の保障と国務請求権 7 新しい人権 8 グローバル化と国際人権	【知識・技能】憲法・人権諸条約・新聞などからの読み取り、ワークシート、小テスト 【思考・判断・表現】【主体的な態度】ディスカッション、作文
10月	第3編 第1章 民主政治の成立と課題	
	1 自由民主主義の成立と危機 2 現代の民主主義と課題 3 世論の形成と民主社会 4 政治参加と主権者（有権者） 5 選挙と政党	【知識・技能】新聞などからの読み取り、ワークシート、定期テスト 【思考・判断・表現】【主体的な態度】ディスカッション、模擬活動（模擬投票など）
	第3編 第2章 日本の政治機構	
11月	1 国会の役割としくみ 2 内閣と行政機関 3 裁判所の役割としくみ 4 市民生活と司法参加 5 地方自治と住民の生活	【知識・技能】憲法・新聞などからの読み取り、ワークシート、小テスト 【主体的な態度】【思考・判断・表現】ディスカッション、模擬活動（模擬国会や模擬裁判など）
	第3編 第3章 国際政治のしくみと役割	
	1 国際政治の成り立ち 2 国際連合の設立とその役割 3 冷戦とその終焉 4 軍縮と安全保障 5 リーナリズム 6 グローバル化と国家	【知識・技能】国連・外務省資料や新聞などからの読み取り、ワークシート、小テスト 【思考・判断・表現】【主体的な態度】ディスカッション、模擬活動（模擬国連など）
12月	第3編 第4章 国際政治の現状と課題	
	1 現代の紛争 2 多文化・多民族社会に向けて 3 移民と難民 4 日本の戦後外交と課題	【知識・技能】国連・外務省資料や新聞などからの読み取り、ワークシート、定期テスト 【思考・判断・表現】【主体的な態度】ケーススタディ、ディスカッション、レポート
	第4編 第1章 私たちと経済活動	
1月	1 私たちと経済 2 仕事と社会 3 国民経済とGDP	【知識・技能】新聞などを使ったワークシート、小テスト 【思考・判断・表現】【主体的な態度】ケーススタディ、ディスカッション、レポート
	第4編 第2章 経済社会のしくみと役割	
2月	1 社会のしくみとしての市場 2 市場の機能 3 市場の限界 4 金融とそのはたらき 5 財政とそのはたらき 6 現代の企業 7 労働問題 8 社会保障の役割 9 少子高齢化と財政の維持可能性	【知識・技能】新聞などからの読み取り、ワークシート、小テスト 【思考・判断・表現】【主体的な態度】ケーススタディ、ディスカッション、プレゼンテーション、模擬活動
3月	第4編 第3章 国際経済の現状と課題	
	1 国際取引引きと国際収支 2 自由経済とグローバル化 3 国際経済のこれから	【知識・技能】統計データ・新聞などからの読み取り、ワークシート、小テスト 【思考・判断・表現】【主体的な態度】ケーススタディ、ディスカッション、レポート

科 目	数学Ⅱ	学 年	2年文系	単位数	3単位
学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 【知識・技能】 ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとする。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりする。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
「高等学校 数学Ⅱ」（数研出版）	・クリアー数学Ⅱ+B+C（数研出版） ・チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C（数研出版）

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
評価方法	小テスト 定期考査・実力考査	小テスト 定期考査・実力考査	ノート 復習プリント 休日課題・長期休業中の課題 授業態度
★	探究力(追求力)	思考力・俯瞰力・コミュニケーション力	実行力・自己肯定感

【学習内容】

学期	学 習 内 容 等	主な考査
1学期	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数	第1回実力考査 第2回実力考査（中間考査） 1学期期末考査 第3回実力考査
2学期	第6章 微分法と積分法	2学期中間考査 学びの基礎診断（第4回実力考査） 2学期期末考査
3学期	問題演習・記述対策	第5回実力考査 学年末考査

【アドバイス】

・予習・復習を欠かさず，授業に全力で集中すること。 ・自分の頭で考え，自分の力で解く姿勢をもち，積極的な学習習慣を身につけること。 ・自分が学習したことを深めるために，他者へ論理的に説明すること。 ・自宅での学習は少なくとも1時間以上確保すること。

※各単元の学習内容や評価の詳細については，後日示します。

科 目	数学Ⅱ	学 年	2年理系	単位数	3単位
学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 【知識・技能】 ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとする。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりする。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
「高等学校 数学Ⅱ」（数研出版）	・クリアー数学Ⅱ+B+C（数研出版） ・チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C（数研出版）

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
評価方法	小テスト 定期考査・実力考査	小テスト 定期考査・実力考査	ノート 復習プリント 休日課題・長期休業中の課題 授業態度
★	探究力(追求力)	思考力・俯瞰力・コミュニケーション力	実行力・自己肯定感

【学習内容】

学期	学 習 内 容 等	主な考査
1学期	第3章 図形と方程式	第1回実力考査 第2回実力考査（中間考査）
2学期	第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法	1学期期末考査 第3回実力考査 2学期中間考査 学びの基礎診断（第4回実力考査） 2学期期末考査
3学期		第5回実力考査 学年末考査

【アドバイス】

・予習・復習を欠かさず，授業に全力で集中すること。 ・自分の頭で考え，自分の力で解く姿勢をもち，積極的な学習習慣を身につけること。 ・自分が学習したことを深めるために，他者へ論理的に説明すること。 ・自宅での学習は少なくとも1時間以上確保すること。

※各単元の学習内容や評価の詳細については，後日示します。

科 目	数学Ⅲ	学 年	2年理系	単位数	1単位
学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 【知識・技能】 ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとする。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりする。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
「高等学校 数学Ⅲ」（数研出版）	・クリアー数学Ⅲ＋C（数研出版） ・チャート式 基礎からの数学Ⅲ＋C（数研出版）

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・極限，微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・数列や関数の値の変化に着目し，極限について考察したり，関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し，数学的に考察したりする力，いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
評価方法	小テスト 定期考査・実力考査	小テスト 定期考査・実力考査	ノート 復習プリント 休日課題・長期休業中の課題 授業態度
★	探究力(追求力)	思考力・俯瞰力・コミュニケーション力	実行力・自己肯定感

【学習内容】

学期	学 習 内 容 等	主な考査
1学期		第1回実力考査 第2回実力考査（中間考査）
2学期		1学期期末考査 第3回実力考査
3学期	第1章 関数 第2章 極限 第3章 微分法	2学期中間考査 学びの基礎診断（第4回実力考査） 2学期期末考査 第5回実力考査 学年末考査

【アドバイス】

- ・予習・復習を欠かさず，授業に全力で集中すること。
- ・自分の頭で考え，自分の力で解く姿勢をもち，積極的な学習習慣を身につけること。
- ・自分が学習したことを深めるために，他者へ論理的に説明すること。
- ・自宅での学習は少なくとも1時間以上確保すること。

※各単元の学習内容や評価の詳細については，後日示します。

科 目	数学B	学 年	2年文系	単位数	1単位
学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 【知識・技能】 ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとする。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりする。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
「高等学校 数学B」（数研出版）	・クリアー数学Ⅱ+B+C（数研出版） ・チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C（数研出版）

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と社会生活との関わりについて認識を深めている。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
評価方法	小テスト 定期考査・実力考査	小テスト 定期考査・実力考査	ノート 復習プリント 休日課題・長期休業中の課題 授業態度
★	探究力(追求力)	思考力・俯瞰力・コミュニケーション力	実行力・自己肯定感

【学習内容】

学期	学 習 内 容 等	主な考査
1学期	第1章 数列	第1回実力考査 第2回実力考査（中間考査） 1学期期末考査 第3回実力考査
2学期		2学期中間考査 学びの基礎診断（第4回実力考査） 2学期期末考査
3学期	第2章 統計的な推測 問題演習・記述対策	第5回実力考査 学年末考査

【アドバイス】

- ・予習・復習を欠かさず，授業に全力で集中すること。
- ・自分の頭で考え，自分の力で解く姿勢をもち，積極的な学習習慣を身につけること。
- ・自分が学習したことを深めるために，他者へ論理的に説明すること。
- ・自宅での学習は少なくとも1時間以上確保すること。

※各単元の学習内容や評価の詳細については，後日示します。

科 目	数学B	学 年	2年理系	単位数	2単位
学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 【知識・技能】 ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとする。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりする。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
「高等学校 数学B」（数研出版）	・クリアー数学Ⅱ+B+C（数研出版） ・チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C（数研出版）

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と社会生活との関わりについて認識を深めている。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
評価方法	小テスト 定期考査・実力考査	小テスト 定期考査・実力考査	ノート 復習プリント 休日課題・長期休業中の課題 授業態度
★	探究力(追求力)	思考力・俯瞰力・コミュニケーション力	実行力・自己肯定感

【学習内容】

学期	学 習 内 容 等	主な考査
1学期	第1章 数列 第2章 統計的な推測	第1回実力考査 第2回実力考査（中間考査） 1学期期末考査 第3回実力考査
2学期		2学期中間考査 学びの基礎診断（第4回実力考査） 2学期期末考査
3学期		第5回実力考査 学年末考査

【アドバイス】

・予習・復習を欠かさず，授業に全力で集中すること。 ・自分の頭で考え，自分の力で解く姿勢をもち，積極的な学習習慣を身につけること。 ・自分が学習したことを深めるために，他者へ論理的に説明すること。 ・自宅での学習は少なくとも1時間以上確保すること。

※各単元の学習内容や評価の詳細については，後日示します。

科 目	数学C	学 年	2年文系	単位数	1単位
学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 【知識・技能】 ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとする。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりする。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
「高等学校 数学C」（数研出版）	・クリアー数学Ⅱ+B+C（数研出版） ・チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C（数研出版）

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学的な表現の工夫について認識を深めている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	小テスト 定期考査・実力考査	小テスト 定期考査・実力考査	ノート 復習プリント 休日課題・長期休業中の課題 授業態度
★	探究力(追求力)	思考力・俯瞰力・コミュニケーション力	実行力・自己肯定感

【学習内容】

学期	学 習 内 容 等	主な考査
1学期		第1回実力考査 第2回実力考査（中間考査）
2学期	第1章 平面上のベクトル 第2章 空間のベクトル	1学期期末考査 第3回実力考査 2学期中間考査 学びの基礎診断（第4回実力考査） 2学期期末考査
3学期	問題演習・記述対策	第5回実力考査 学年末考査

【アドバイス】

・予習・復習を欠かさず、授業に全力で集中すること。 ・自分の頭で考え、自分の力で解く姿勢をもち、積極的な学習習慣を身につけること。 ・自分が学習したことを深めるために、他者へ論理的に説明すること。 ・自宅での学習は少なくとも1時間以上確保すること。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	数学C	学 年	2年理系	単位数	1単位
学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 【知識・技能】 ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとする。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりする。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
「高等学校 数学C」（数研出版）	・クリアー数学Ⅱ+B+C（数研出版） ・チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C（数研出版）

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学的な表現の工夫について認識を深めている。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・大きさや向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
評価方法	小テスト 定期考査・実力考査	小テスト 定期考査・実力考査	ノート 復習プリント 休日課題・長期休業中の課題 授業態度
★	探究力(追求力)	思考力・俯瞰力・コミュニケーション力	実行力・自己肯定感

【学習内容】

学期	学 習 内 容 等	主な考査
1学期	第1章 平面上のベクトル 第2章 空間のベクトル	第1回実力考査 第2回実力考査（中間考査） 1学期期末考査 第3回実力考査
2学期		2学期中間考査 学びの基礎診断（第4回実力考査） 2学期期末考査
3学期		第5回実力考査 学年末考査

【アドバイス】

・予習・復習を欠かさず，授業に全力で集中すること。 ・自分の頭で考え，自分の力で解く姿勢をもち，積極的な学習習慣を身につけること。 ・自分が学習したことを深めるために，他者へ論理的に説明すること。 ・自宅での学習は少なくとも1時間以上確保すること。

※各単元の学習内容や評価の詳細については，後日示します。

科 目	物理基礎・物理	学 年	2・3年	単位数	物理基礎2年2単位 物理2年2単位・3年4単位
学習の到達目標	物理的な事物・現象についての観察, 実験などを行い, 自然に対する関心や探求心を高め, 物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ, 科学的な自然観を育成する。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
〔教科書〕数研出版「物理基礎」 数研出版「総合物理1」「総合物理2」 〔副教材〕数研出版「リードα物理基礎・物理」	数研出版「フォローアップ・ドリル」

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	知識の習得や知識の概念的な理解, 実験操作の基本的な技術の習得ができています。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において, 粘り強く学習に取り組んでいるか, 自ら学習を調整しようとしている。
評価方法	定期考査, 実力考査, 授業プリント・ワークシート, 実験報告書, 課題の取組・提出状況, 訂正ノート 等 ① 知識・技能 授業中の発言や記述の内容, ペーパーテストなどから状況をみる。観察, 実験において, 基本操作を習得するとともに, 観察, 実験の計画的な実施, 結果の記録や整理, 資料の活用の仕方などを身に付けているかについて, 行動や記述の内容, パフォーマンステストなどから状況をみる。 ② 思考・判断・表現 自然の事物・現象の中に問題を見いだし, 見通しをもって観察, 実験などを行い, その結果を解釈し表現するなど, 科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを, 発言や記述の内容, ペーパーテストなどから状況をみる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に主体的に関わり, 見通しをもったり振り返ったりするなど, 科学的に探究しようとしているかを, 発言や記述の内容, 行動などから状況をみる。		
★	探求力(追求力))	思考力, 実行力	コミュニケーション力, 実行力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	付けたい力
2 年 1 学期	4	第1編 力と運動 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動	(1) 物理の基本的な概念や原理・法則の理解を深め, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する技能。 (2) 観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力。 (3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度。
	5	第2章 運動の法則 1. 力のはたらき 2. 力のつり合い 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 6. 剛体にはたらく力のつり合い	
	6	第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存	
	7	第4章 運動量の保存 1. 運動量と力積 2. 運動量保存則 3. 反発係数	
	9	第5章 円運動と万有引力 1. 等速円運動 2. 慣性力 3. 単振動 4. 万有引力	
2 学期			(1) 予習において教科書を開き, 授業で学習する内容の概要を把握する。 (2) 授業中は内容についてしっかり理解しようという気持ちで臨み, 教師の説明を真剣に受け止め, 納得のいかないことについては必ず質問する。 (3) 習ったことはその日のうちに復習する。また, 教科書の重要ポイントは蛍光ペンでアンダーラインを引いたり書き出したりして, 記憶に残す割合を増やす。 (4) 身の回りの自然現象に積極的に興味・関心・疑問を持つよう心がけ, 自力で解決する力を養う。

3 学 期	10	第2編 熱と気体 第1章 熱と物質 1. 熱と物質の状態 2. 熱と仕事	
	11	第2章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則 2. 気体分子の運動 3. 気体の状態変化 4. エネルギーの移り変わり	
	12	第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 正弦波の式 3. 波の伝わり方	
	1	第2章 音 1. 音の伝わり方 2. 発音体の振動と共振・共鳴 3. 音のドップラー効果	
	2	第3章 光 1. 光の性質 2. レンズと鏡 3. 光の干渉と回折	
	3	第4編 電気と磁気 第1章 電場 1. 静電気力 2. 電場 3. 電位 4. 物質と電場 5. コンデンサー	
	4	第2章 電流 1. オームの法則 2. 直流回路 3. 半導体	
	6	第3章 電流と磁場 1. 磁場 2. 電流のつくる磁場 3. 電流が磁場から受ける力 4. ローレンツ力	
	7	第4章 電磁誘導と電磁波 1. 電磁誘導の法則 2. 自己誘導と相互誘導 3. 交流の発生 4. 交流回路 5. 電磁波	
	9		
2 学 期	10	第5編 原子 第1章 電子と光 1. 電子 2. 光の粒子性 3. X線 4. 粒子の波動性	
	11	第2章 原子と原子核 1. 原子の構造とエネルギー準位 2. 原子核 3. 放射線とその性質 4. 核反応と核エネルギー 5. 素粒子	
	12	発展演習	
3 学 期	1	大学入学共通テスト対策 個別試験対策	
	2		

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	化学基礎	学 年	2 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究する力を身に付ける。また、化学と日常生活や社会との関わりを考えることができるようになる。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
〔教科書〕数研出版「新編 化学基礎」 〔副教材〕博洋社 「化学基礎研究ノート」	インプレス 化学基礎

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしている。
評価方法	定期考査、実力考査、ワークシート、実験報告書、課題の取組・提出状況、授業ノート 等 ① 知識・技能 授業中の発言や記述の内容、ペーパーテストなどから状況をみる。観察、実験において、基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身につけているかについて、行動や記述の内容、パフォーマンステストなどから状況をみる。 ② 思考・判断・表現 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を解釈し表現するなど、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを、発言や記述の内容、ペーパーテストなどから状況をみる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしているかを、発言や記述の内容、行動などから状況をみる。		
★	探求力(追求力))	思考力、実行力	コミュニケーション力、実行力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	付けたい力
1 学期	4	序章 化学の特徴	(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力。 (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度。
	5	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 1 混合物と純物質 2 物質とその成分 3 物質の三態と熱運動 第2章 物質の構成粒子 1 原子とその構造 2 イオン 3 元素の周期表	
	6	第3章 粒子の結合 1 イオン結合とイオンからなる物質 2 分子と共有結合 ※化学の内容まで発展させる。 3 共有結合の結晶 4 金属結合と金属	
2 学期	7	第2編 物質の変化 第1章 物質質量と化学反応式 1 原子量・分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質質量 第2章 酸と塩基の反応 1 酸・塩基 2 水の電離と水溶液の pH 3 中和反応と塩 4 中和滴定	(1) 予習において教科書を開き、授業で学習する内容の概要を把握する。 (2) 授業中は内容についてしっかり理解しようという気持ちで臨み、教師の説明を真剣に受け止め、納得のいかないことについては必ず質問する。 (3) 授業ノートを日付まで記入し、習ったことはその日のうちに復習する。また、教科書の重要ポイントは蛍光ペンでアンダーラインを引いたり書き出したりして、記憶に残す割合を増やす。 (4) 身の回りの自然現象に積極的に興味・関心・疑問を持つよう心がけ、自力で解決する力を養う。
	9	第3章 酸化還元反応 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の利用	
	10	終章 化学が拓く世界	

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	化学	学 年	2 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めるとともに、科学的に探究する力や科学的に探究しようとする態度を身に付ける。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
〔教科書〕数研出版「新編 化学」 〔副教材〕博洋社 「化学研究ノート」	インプレス 化学

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしている。
評価方法	定期考査、実力考査、ワークシート、実験報告書、課題の取組・提出状況、授業ノート 等 ① 知識・技能 授業中の発言や記述の内容、ペーパーテストなどから状況をみる。観察、実験において、基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身につけているかについて、行動や記述の内容、パフォーマンステストなどから状況をみる。 ② 思考・判断・表現 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を解釈し表現するなど、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを、発言や記述の内容、ペーパーテストなどから状況をみる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしているかを、発言や記述の内容、行動などから状況をみる。		
★	探求力(追求力))	思考力、実行力	コミュニケーション力、実行力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	付けたい力
2 学期	10	第2編 物質の変化 第2章 電池と電気分解 (化学基礎から継続) 1 電池 2 電気分解	(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能。
	11	第1編 物質の状態 第1章 固体の構造 ※化学基礎で扱う	
	12	第2章 物質の状態変化 1 粒子の熱運動 2 三態の変化とエネルギー 3 気液平衡と蒸気圧	
3 学期	12	第3章 気体 1 気体の体積 2 気体の状態方程式 3 混合気体の圧力 4 実在気体	(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力。
	1	第4章 溶液 1 溶解とそのしくみ 2 溶解度 3 希薄溶液の性質 4 コロイド溶液	
	1	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー 1 化学反応と熱 2 ヘスの法則 3 化学反応と光	(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度。
	2	第2章 電池と電気分解 ※化学基礎で扱う 第3章 化学反応の早さとしきみ 1 化学反応の早さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応のしくみ	
	2	第4章 化学平衡 1 可逆反応と化学平衡 2 平衡状態の変化 3 電解質水溶液の化学平衡	
	3	第3編 無機物質 第1章 非金属元素 1 元素の分類と周期表 2 水素・貴ガス 3 ハロゲン元素 4 酸素・硫黄 5 窒素・リン 6 炭素・ケイ素	

(1) 予習において教科書を開き、授業で学習する内容の概要を把握する。
 (2) 授業中は内容についてしっかり理解しようという気持ちで臨み、教師の説明を真剣に受け止め、納得のいかないことについては必ず質問する。
 (3) 授業ノートを日付まで記入し、習ったことはその日のうちに復習する。また、教科書の重要ポイントは蛍光ペンでアンダーラインを引いたり書き出したりして、記憶に残す割合を増やす。
 (4) 身の回りの自然現象に積極的に興味・関心・疑問を持つよう心がけ、自力で解決する力を養う。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	生物基礎	学 年	2 年文系	単位数	2 単位
学習の到達目標	1. 生物界を広くとらえた視点を身につける。 2. 生物と遺伝子について、細胞の働きおよび DNA の構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身につける。 3. 生物には体内環境を維持するしくみを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。 4. 生物の多様性と生態系について理解し、その保全の重要性について認識する。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
(教科書)「高等学校生物基礎」(数研出版) (副教材)「スクエア最新図説生物」(第一学習社)	「リード Light ノート生物基礎」(数研出版) 「WINSTEP 生物基礎 改訂版」(ラーンズ)

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	観察、実験などの経験を通して、目の前の課題を科学的に探究し、解決するための力が身に付いている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養おうとしている。
評価方法	① 教科書・問題集の問題 授業中および課題での各問題への取組状況から評価する。 ② 定期考査・実力考査 学習内容に合わせて問題を出題。基本的な知識が身についているか、応用的な問題に対応できるかを確かめ、評価する。 ③ 観察・実験等 観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。		① 授業への取組 出欠状況、授業態度、小テストへの取組、提出物等で判断する。 ② ノート等の記載状況 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。
★	探究力	思考力	実行力

【学習内容】

	月	学習項目	学習のねらい
1 学期		序章 生物基礎を学ぶにあたって探究のプロセス	序章 生物基礎で学習する内容の概要を把握する。学習を進めるうえで重要な探究のプロセスについて理解する。顕微鏡の使い方を習得する。
		第1編 生物の特徴	第1節 生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解する。生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解する。
	4	第1章 生物の特徴	第2節 生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。細胞の生命活動のエネルギーは ATP の形で供給されることを理解する。
	5	第1節 生物の多様性と共通性	第3節 呼吸や光合成の過程で ATP が合成されることを理解する。酵素の特徴を理解するとともに、酵素によって生体内で必要な化学反応が進行することを理解する。
	6	第2節 エネルギーと代謝	第1節 DNA は 2 本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。遺伝情報は DNA の塩基配列にあることを理解する。
2 学期	7	第3節 呼吸と光合成	第2節 DNA が、半保存的に複製されることを理解する。細胞周期の進行に伴って、DNA が正確に複製され、2 つの細胞に分配されることを理解する。
		第2章 遺伝子とそのはたらき	第3節 タンパク質のアミノ酸配列は、DNA の塩基配列によって決まることを理解する。個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。
		第1節 遺伝情報と DNA	
		第2節 遺伝情報の複製と分配	
		第3節 遺伝情報の発現	
2 学期	9	第2編 ヒトの体内環境の維持	第1節 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われることを理解する。
	10	第3章 ヒトの体内環境の維持	第2節 ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。
	11	第1節 体内での情報伝達と調節	第3節 からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることについて理解する。
	12	第2節 体内環境の維持のしくみ	
		第3節 免疫のはたらき	

3 学 期	1	第3編 生物の多様性と生態系	第1節 植生の成りたちや相観について理解する。植生が時間の経過とともに 移り変わっていくことを理解する。 第2節 世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。気 候条件によっては、遷移の結果として森林のほかに草原や荒原にもなること を理解する。 第3節 生態系の成りたちを理解する。生物どうしの関係が種多様性の維持に かかわっていることを理解する。 第4節 生態系がもつ復元力について理解する。人間活動が生態系に及ぼす影 響について理解する。生態系の保全の重要性について理解する。
	2	第4章 生物の多様性と生態系	
	3	第1節 植生と遷移	
		第2節 植生の遷移とバイオーム	
		第3節 生態系と生物の多様性	
		第4節 生態系のバランスと保全	

【アドバイス】

- ① 何より授業勝負。重要だと思うところはメモをとったり教科書に線を引いたりしよう。
- ② 復習中心の学習をしよう。生物基礎では予習はしなくても構わない。その代わりに復習をしよう。その日に習ったことはその日のうちに理解すること。質問大歓迎。
- ③ 宿題は必ずやり遂げ、期限内に提出しよう。随時、確認テストを実施する。
- ④ 考査や模試を受けた後は、振り返りを確実に行おう。同じミスを繰り返さないことが大切。
- ⑤ 日頃から、新聞やテレビなどの生物の話題に関心を持つことが大切。

科 目	生物基礎	学 年	2 年理系	単位数	2 単位
学習の到達目標	1. 生物界を広くとらえた視点を身につける。 2. 生物と遺伝子について、細胞の働きおよび DNA の構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身につける。 3. 生物には体内環境を維持するしくみを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。 4. 生物の多様性と生態系について理解し、その保全の重要性について認識する。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
(教科書)「高等学校生物基礎」(数研出版) (副教材)「スクエア最新図説生物」(第一学習社)	「リードライトノート生物基礎」(数研出版) 「セミナー生物基礎＋生物」(第一学習社)

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	観察、実験などの経験を通して、目の前の課題を科学的に探究し、解決するための力が身に付いている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養おうとしている。
評価方法	① 教科書・問題集の問題 授業中および課題での各問題への取組状況から評価する。 ② 定期考査・実力考査 学習内容に合わせて問題を出題。基本的な知識が身につけているか、応用的な問題に対応できるかを確かめ、評価する。 ③ 観察・実験等 観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。		① 授業への取組 出欠状況、授業態度、小テストへの取組、提出物等で判断する。 ② ノート等の記載状況 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができていかなどを評価する。
★	探究力	思考力	実行力

【学習内容】

	月	学習項目	学習のねらい
1 学期	4	序章 生物基礎を学ぶにあたって 探究のプロセス 第1編 生物の特徴 第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性	序章 生物基礎で学習する内容の概要を把握する。学習を進めるうえで重要となる探究のプロセスについて理解する。顕微鏡の使い方を習得する。 第1節 生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解する。生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解する。
	5	第2節 エネルギーと代謝 第3節 呼吸と光合成 第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報と DNA 第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報の発現	第2節 生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。細胞の生命活動のエネルギーは ATP の形で供給されることを理解する。 第3節 呼吸や光合成の過程で ATP が合成されることを理解する。酵素の特徴を理解するとともに、酵素によって生体内で必要な化学反応が進行することを理解する。 第1節 DNA は 2 本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。遺伝情報は DNA の塩基配列にあることを理解する。 第2節 DNA が、半保存的に複製されることを理解する。細胞周期の進行に伴って、DNA が正確に複製され、2 つの細胞に分配されることを理解する。 第3節 タンパク質のアミノ酸配列は、DNA の塩基配列によって決まることを理解する。個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。
	6	第2編 ヒトの体内環境の維持 第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節	第1節 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われることを理解する。
	7	第2節 体内環境の維持のしくみ 第3節 免疫のはたらき	第2節 ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。 第3節 からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることについて理解する。

2 学 期	9	第3編 生物の多様性と生態系	第1節 植生の成りたちや相観について理解する。植生が時間の経過とともに 移り変わっていくことを理解する。 第2節 世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。気 候条件によっては、遷移の結果として森林のほかに草原や荒原にもなること を理解する。 第3節 生態系の成りたちを理解する。生物どうしの関係が種多様性の維持に かかわっていることを理解する。 第4節 生態系がもつ復元力について理解する。人間活動が生態系に及ぼす影 響について理解する。生態系の保全の重要性について理解する。
		第4章 生物の多様性と生態系	
		第1節 植生と遷移	
		第2節 植生の遷移とバイオーム	
		第3節 生態系と生物の多様性	
		第4節 生態系のバランスと保全	

【アドバイス】

- ① 何より授業勝負。重要だと思うところはメモをとったり教科書に線を引いたりしよう。
- ② 復習中心の学習をしよう。生物基礎では予習はしなくても構わない。その代わりに復習をしよう。その日に習ったことはその日のうちに理解すること。質問大歓迎。
- ③ 宿題は必ずやり遂げ、期限内に提出しよう。随時、確認テストを実施する。
- ④ 考査や模試を受けた後は、振り返りを確実に行おう。同じミスを繰り返さないことが大切。
- ⑤ 日頃から、新聞やテレビなどの生物の話題に関心を持つことが大切。

科 目	生 物	学 年	2 年理系	単位数	2 単位
学習の到達目標	生物や生物現象に関わる基本的な概念を理解し、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
「生物」（数研出版） 「スクエア最新図説生物」（第一学習社）	「リード Light ノート生物基礎」（数研出版） 「セミナー生物基礎＋生物」（第一学習社）

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	観察、実験などの経験を通して、目の前の課題を科学的に探究し、解決するための力が身に付いている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養おうとしている。
評価方法	定期考査、実力考査、小テスト、課題の提出状況、実験・観察のレポート、レポート課題など。 1 知識・技能 小テストや定期考査・実力考査などを通して知識の定着度や理解度を計るとともに、実験・観察において基本的操作が身に付いているか、結果を正しく記録・整理しているかなどを評価する。 2 思考力・判断力・表現力 実験・観察をあらかじめ見通しをもって行う習慣がついているか、結果に対して適切な考察や報告ができているか、新たに生じた課題の解決のための科学的手法を自ら立案することができるかを評価する。 3 主体的に学習する態度 授業に取り組む姿勢の他、身の回りの生物や生物現象に興味を持って記録を取ったり、新聞やネットの情報を集めて自らの課題を解決しようとしたりする態度が身に付いているかを評価する。		
★	探究力	思考力	実行力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	つきたい力
1 学期	4	(*前半は生物基礎の学習となる。)	
	5		
	6		
	7		
2 学期	9	第1章 生物の進化 第1節 生命の起源と生物の進化 第2節 遺伝子の変化と多様性 第3節 遺伝子の組み合わせの変化 第4節 進化のしくみ 第5節 生物の系統と進化 第6節 人類の系統と進化	・生物が進化してきたことを論理的に説明できる力。 ・以降に学ぶ生物現象を進化と結びつけて考えられる力。
	10		
	11		
	12		
3 学期	1	第3節 化学反応にかかわるタンパク質 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 第3章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼吸と発酵 第3節 光合成	
	2		
	3		

・生物用語は丸暗記せず、生物現象を説明する言葉としてとらえ、必ずその意味を合わせて覚えること。

・予習よりも復習に力を入れ、「リード Light ノート生物」を用いて必ずその日のうちに授業を振り返ること。時間は10分でもよい。

・小テストは毎回満点をめざし、知識の抜け漏れを防ぐこと。

・生物現象はよく図を使って表される。重要な図は、自分でその図を書けるようにすることが実力アップの秘訣である。

・定期テストは教科書レベルの問題であるが、実力テストは応用力が試される。「セミナー生物基礎＋生物」の問題を繰り返し解いて深く考える習慣をつけること。

科 目	地学基礎	学 年	2 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	1. 地球の大地がどのような特徴をもち、どのような活動が見られるのかを、様々な現象に関連付けながら理解する。 2. 地球の大気や海洋がどのような特徴をもち、どのような役割を果たしているのかを理解し、説明できるようにする。 3. 地球の誕生から現在に至るまでの変遷について、一連の時間の中で捉え、様々な事象と関連付けながら理解を深める。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
(教科書) 地学基礎 (啓林館) (副教材) スクエア最新図説 (第一学習社) 研究ノート (博洋社) セミナー (第一学習社)	地学基礎の基本マスター (啓林館)

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と自然環境の保全に寄与しようとしている。
評価方法	① 教科書・問題集の問題 授業中および課題での各問題への取組状況から評価する。 ② 定期考査・実力考査 学習内容に合わせて問題を出題。基本的な知識が身についているか、応用的な問題に対応できるかを確かめ、評価する。 ③ 観察・実験等 観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。		① 授業への取組 出欠状況、授業態度、小テストへの取組、提出物等で判断する。 ② ノート等の記載状況 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。
★	探究力	思考力	実行力

【学習内容】

【アドバイス】

	月	学習項目	学習内容
1 学期	4	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 1 節 地球の概観 2 節 地球の内部構造	地球の概観について学び、その内部構造について理解する。
	5		
	6	第2章 活動する地球 1 節 プレートテクトニクスと地球の活動	プレートと地球の活動について学び、地質構造、変成岩の形成、地震、火山活動、火成岩の形成について理解する。
	7	2 節 地震 3 節 火山活動と火成岩の形成	
2 学期	9	第2部 大気と海洋 第1章 大気の構造 1 節 大気圏 2 節 水と気象	大気の層構造および水と気象の関係について学ぶ。
	10	第2章 太陽放射と大気・海水の運動	地球全体のエネルギー収支について理解し、大気の大循環や海水の循環について学ぶ。
	11	1 節 地球のエネルギー収支 2 節 大気の大循環	
	12	3 節 海水の循環 第3章 日本の天気	日本で見られる冬から春、夏から秋への季節の気象について学ぶ。
3 学期	1	第3部 移り変わる地球 第3章 地球史の読み方	堆積岩とその形成や地層について学び、地球の歴史の組み立てについて理解する。
	2	1 節 地層からわかること 2 節 地層の形成	
	3	3 節 地層の読み方	

- ① 授業を大切にしましょう。
重要だと思うところはメモをとったり教科書に線を引いたりすること。
- ② 復習中心の学習をしましょう。その日に習ったことはその日のうちに理解すること。
質問大歓迎です。
- ③ 宿題は必ずやり遂げ、期限内に提出しましょう。随時、小テストも行います。
- ④ 考査や模試を受けた後は、訂正を確実に行いましょう。同じミスを繰り返さないことが大切です。
- ⑤ 日頃から、新聞やテレビなどの地学的な話題に関心を持ちましょう。

2年 年間学習指導計画（学習内容・到達目標）

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3単位	対象学年	2年
【到達目標】 1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付ける。 2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。					【知識・技能】 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。		
【学習方法・心構え】 1) 運動に主体的に取り組む、ルールやマナーを大切にする。 2) 各運動で、記録の向上や競争の喜びを味わい、各種目の技能を高める。 3) 運動の方法、体力の高め方、課題解決の方法などを理解する。 4) 柔道・剣道は、相手との攻防の仕方、試合の仕方を学ぶと共に、相手を尊重し、礼儀正しく活動すること。 5) ルールを理解し、試合はもちろんのこと審判ができるレベルにまでなること。							

項目名		時間の 目安	学習のねらい	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保健編 3単元 生涯を通じる健康						
1	ライフステージと健康	11	・ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげることができる。	・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2	思春期と健康		・思春期における体の変化を、女性と男性に分けて説明できる。 ・思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例をあげることができる。	・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
3	性意識と性行動の選択		・性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・性情報が性行動の選択に影響を及ぼす例をあげることができる。			
4	妊娠・出産と健康		・妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。 ・妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスの例をあげることができる。 ・家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。			
5	避妊法と人工妊娠中絶		・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。			
6	結婚生活と健康		・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ・結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。			
7	中高年期と健康		・加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。 ・高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例をあげて説明できる。	・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢社会では、認知症を含む疾病等への対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まることなどから、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
8	働くことと健康	5	・働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。 ・働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる。	・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 ・労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。 ・労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	労働と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
9	労働災害と健康		・労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ・労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。			
10	健康的な職業生活		・職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。 ・余暇を積極的にとることの意義について説明できる。			
保健編 4単元 健康を支える環境づくり						
1	大気汚染と健康	6	・大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。 ・大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。	・人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 ・環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2	水質汚濁、土壌汚染と健康		・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ・大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。			
3	環境と健康にかかわる対策		・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できる。 ・産業廃棄物の処理について説明できる。			
4	ごみの処理と上下水道の整備		・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。 ・上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。			
5	食品の安全性	4	・食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。 ・食品の安全性に関する今日的課題について説明できる。	・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。 ・食品と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
6	食品衛生にかかわる活動		・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。 ・食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できる。			
7	保健サービスとその活用	5	・保健行政の役割について例をあげて説明できる。 ・保健サービスの活用の例をあげることができる。 ・わが国における医療保険のしくみについて説明できる。 ・さまざまな医療機関の役割について説明できる。	・我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。 ・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
8	医療サービスとその活用		・わが国における医療保険のしくみについて説明できる。 ・さまざまな医療機関の役割について説明できる。	・健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
9	医療品の制度とその活用		・医薬品の正しい使用法について説明できる。 ・医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。	・医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
10	さまざまな保健活動や社会的対策	1	・国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる。 ・行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる。	・我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・地域の保健・医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、関連した情報を整理し、生活の質の向上に向けた課題解決に応用している。 ・様々な保健活動や社会的対策について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	様々な保健活動や社会的対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
11	健康に関する環境づくりと社会参加	3	・健康の保持増進のための環境づくりについて説明できる。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。	・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・一人一人が健康に関心をもち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながることにについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康に関する環境づくりと社会参加について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てている。 ・健康に関する環境づくりと社会参加について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	健康に関する環境づくりと社会参加について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

科 目	音 楽 II	学 年	2 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材
教育芸術社『MOUSA2』 九州高等学校音楽教育研究会編『MUSIC NOTE』 ヤマハ音楽振興会『Classic Guitar Course Vol.1』

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて理解している。 ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	・個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができる。 ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	授業や課題への取り組み 提出物の内容 実技試験		
★	探求力・多様な個性を尊重する態度・コミュニケーション力・実行力	探求力・思考力・実行力	探求力・思考力・実行力・俯瞰力・コミュニケーション力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等
1 学期	4	【歌唱】イタリア歌曲、ソルフェージュ
	5	【器楽】ギター（コードを中心に）
	6	
	7	
2 学期	9	【歌唱】日本歌曲、ミュージカル《オペラ座の怪人》
	10	【器楽】ヴァイオリンに親しむ
	11	【創作】リズム、旋律等
	12	【鑑賞】映画音楽、ミュージカル、オペラ
3 学期	1	【歌唱】合唱、ヴォイス・アンサンブル
	2	【器楽】アンサンブル（器楽・リズム等）
	3	【鑑賞】日本の伝統音楽（琵琶楽、文楽、歌舞伎）

・定期考査を実施しない為、授業での取り組みや、提出物・実技試験等が評価の基準となる。積極的に活動に取り組むこと。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	美術Ⅱ	学 年	2 年 文系	単位数	2 単位
学習の到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想したり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の創造的な活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材
高校生の美術 2 (日本文教出版)

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	- 造形の要素の働きを理解している。 - 造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 - 意図に応じて表現方法を創意工夫し、主題を追究して創造的に表している。	- 造形的なよさや美しさを感じ取り考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。 - 表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の工夫を練っている。 - 美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めている。	- 主体的に絵画・彫刻、デザインの表現の創造活動に取り組もうとしている。 - 主体的に作品や美術文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	- 授業や課題の取り組み・ルーブリック評価表を使った自己評価 - 課題作品及び毎時間ごとの振り返りの提出 - 基礎的課題作品・アイディアスケッチ - 鑑賞活動		
★	探究力・実行力・俯瞰力	思考力・自己肯定感・コミュニケーション力	探究力・多様な個性を尊重する態度 実行力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	
1 学期	4	・オリエンテーション	定期考査を実施しないため、授業での制作活動や課題提出等が評価の基準となる。積極的に活動に取り組むこと。 (進度に不安がある場合、放課後等を活用し、制作してもよい)
	5	・【映像メディア表現・絵画・鑑賞】 『何気ない日常』～写真から風景画へ～	
	6	・【デザイン】新幹線の車体デザイン プレゼンテーションを含めたデザインの構築	
	7	・【デザイン】オリジナルデザインのスイッチカバーの制作	
2 学期	8		
	9		
	10	・【立体・絵画】石の中に見た世界観を探してみよう 任意の石への形を意識した着色	
	11		
3 学期	12	・【絵画・鑑賞】～想像世界での油彩画を描こう～ 任意の動物と自画像の構成	
	1		
	2	【鑑賞】	
	3	・現代美術の魅力について ・美術Ⅱまとめ	

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	書 道 II	学 年	2 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身につけるようにする。 (2) 書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
書 II (光村図書)	補助プリント

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造しようとしている。
評価方法	・授業や課題の取り組み ・積極的な鑑賞活動 ・提出作品 ・ワークシート等の記入状況		
★	探求力・思考力・実行力	探求力・思考力・コミュニケーション力	探求力・実行力・多様な個性を尊重する態度

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	
1学期	4	漢字の書	○定期考査を実施しないため、授業態度と作品制作の取り組み状況等が評価の基準となる。 ○主体的な態度で授業に取り組み、古典や古筆の理解度を高められるよう努めること。 ○古典や古筆の臨書を通して感性を養い、創造力を働かせ、創作活動に活かせるよう努めること。
	5	古典の臨書(篆書)	
	6	古典の臨書(隸書)	
	7	古典の臨書(草書)	
2学期	7	漢字仮名交じりの書 創作	
	9	硬筆(硬筆展への取り組み)	
	10	仮名の書 創作(古筆による創作、鑑賞)	
	11	漢字仮名交じりの書 創作(半切)	
	12	生活の中の書 年賀状を書こう	
3学期	1	刻字	
	2	創作(古典を生かした創作)	
	3	漢字仮名交じりの書 自由制作	

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	英語コミュニケーションⅡ	学 年	2 年	単位数	文系 4 単位 理系 3 単位
学習の到達目標	(1) 聞くこと 1 分間 1 0 0 語レベルの学校、家庭、お店などで行われる日常的な対話を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。 (2) 読むこと 説明文や物語文などの英文を 1 0 0 ～ 1 1 0 WPM で読み、ディスコースマーカ―や論理構造を手がかりにして、概要や要点を理解することができる。 (3) 話すこと[やり取り] 日常的な話題について、自分の意見を、理由を添えてパートナーと 2 分程度やりとりすることができる。また、相手の意見に対して、相づちを打ったり、聞き返しをしたりすることができる。 (4) 話すこと[発表] [やり取り]と同様の内容について、自分の意見や考えを、理由を添えて 1 分程度話すことができる。 (5) 書くこと 聞いたり読んだりしたことに対しての自分の意見やその理由を、自分が使える英語を用いて、1 5 分で 8 0 語程度で書くことができる。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
『Heartening English Communication II』（桐原書店）	〈別途指示します。〉

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	目的に応じた読み方や聞き方をし、未知の表現を習得するために辞書や ICT を活用し、また、話したり書いたりするときには間違えることを恐れず、主体的、自律的に英語を用いたコミュニケーション能力を身につけようとしている。
評価方法	a. 授業や課題に取り組む姿勢 b. パフォーマンステスト c. 課題、ノート等の提出 d. 小テスト・各レッスンの評価問題・定期考査		
★	探究力	思考力・コミュニケーション力	実行力・俯瞰力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	主な考査
1 学期	4		学びの基礎診断
	5	Lesson 1 Laughter without Borders	(スタディーサポート)
	6	Lesson 2 The Ongoing Voyages of Curry	1 学期中間考査
	7	Lesson 3 The World's Most Bicycle-friendly City	1 学期末考査
2 学期	9	Lesson 4 Can You Feel Emotions in Text?	第 2 回実力考査
	10	Lesson 5 Background Music and Sharks	2 学期中間考査
	11	Lesson 6 The Benefits of Play	学びの基礎診断
	12	Lesson 7 Nursing in a War Zone	(進研記述模試) 2 学期末考査
3 学期	1	Lesson 8 Hawaii's Debate about a Sacred Mountain	第 3 回実力考査 学年末考査
	2	Lesson 9 The Next Wave in Artificial Intelligence	
	3	Lesson 10 What If There Were No Moon?	

- ・英語学習法（自学自習の態勢）を確立する。
- ・毎日 1 ～ 2 時間程度の学習時間を確保し、可能な限り多くの英文を読んだり、聞いたりする。
- ・未知の語はすぐに辞書を引くのではなく、まず推測する。その後、辞書を引いて確認。
- ・授業で疑問点を解決し、授業後に復習・習得。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。

科 目	論理・表現Ⅱ	学 年	2 年	単位数	2 単位
学習の到達目標	＊言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。 (1) 話すこと[やり取り] ディベートやディスカッションなどの活動の中で、日常的な話題について、自分の意見を、理由を添えてパートナーと2分程度やりとりすることができる。また、相手の意見に対して、相づちを打ったり、聞き返しをしたりすることができる。 (2) 話すこと[発表] スピーチやプレゼンテーションなどの活動の中で、[やり取り]と同様の内容に対しての自分の意見や考えを、理由を添えて1分程度話すことができる。 (3) 書くこと 聞いたり読んだりしたことに対しての自分の意見やその理由を、自分が使える英語を用いて、15分で80語程度で書くことができる。				

【使用教材】

教科書・副教材	課題帳等
『be English Logic and ExpressionⅡClear』（いいずな書店）	『英作基本文例 600』（啓隆社）

【目指す能力と評価について】

★は川内高校グランドデザイン(育てたい資質・能力)との結びつき

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。
評価方法	a. 授業や課題に取り組む姿勢 b. パフォーマンステスト c. 課題、ノート等の提出 d. 小テスト・各レッスンの評価問題・定期考査		
★	探究力	思考力・コミュニケーション力	実行力・俯瞰力

【学習内容】

【アドバイス】

学期	月	学習内容等	主な考査
1 学期	4 5 6 7	Lesson 1 Your Interests Lesson 2 Your Daily Life Lesson 3 Your School Life Lesson 4 Media Literacy Lesson 5 Helping Others Lesson 6 Introducing Your Town	学びの基礎診断 (スタディーサポート) 1学期末考査
2 学期	9 10 11 12	Lesson 7 Languages of the World Lesson 8 Imagining the Future Lesson 9 Happiness and Stress Lesson 10 Comparing Countries Lesson 11 Cultural Diversity Lesson 12 Japanese customs	第2回実力考査 2学期中間考査 学びの基礎診断 (進研記述模試) 2学期末考査
3 学期	1 2 3	Lesson 13 Population Issues Lesson 14 Right and Equality Lesson 15 Think Globally, Act Locally	第3回実力考査 学年末考査

- ・英語学習法(自学自習の体制)を確立する。
- ・毎日、最低1～2時間程度の学習時間を確保し、可能な限り多くの英文を読んだり、聞いたりする。
- ・最初から辞書を使うのではなく、まず読む、聞く。その後、確認のために辞書を引く。
- ・授業で疑問点を解決し、授業後に復習・習得。

※各単元の学習内容や評価の詳細については、後日示します。